

令和3年度 第1回会津若松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年5月31日(木)
開会 午後1時30分 閉会 午後2時55分

2 場 所 會津稽古堂 研修室2

3 出席者 市長 室井 照平
教育長 寺木 誠伸
委員 松本 健男
委員 秋月 淳子
委員 一ノ瀬 美枝
委員 林 健幸

4 事務局出席者 教育部長 山口 城弘
教育副部長兼教育総務課長 山口 勝彦
生涯学習総合センター所長 鈴木 茂
学校教育課長 安齋 敦
学校教育課主幹 田場川 貴光
学校教育課主幹兼指導主事 大西 健夫
学校教育課主幹兼指導主事 高橋 純子
教育総務課副主幹 山内 斉

5 協議題 (1) 学校教育における新型コロナウイルス感染症の対応について
(2) 令和3年度あいづっこ学力向上推進事業の進捗状況について
(3) その他

6 議事の概要

○開会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 秋月委員、一ノ瀬美枝委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長> それでは、早速、協議題に移ります。

一つ目の協議題は「学校教育における新型コロナウイルス感染症の対応」についてであります。

本市では、4月下旬から急激に感染者が広がり、学校においても児童生徒の感染者が発生し、いくつかの学校において、学年閉鎖や学級閉鎖等の対応を行ってきたところでありますので、これまでの経過や現在の状況を報告させていただき、また、今後の取組や課題を共有する機会とさせていただければと考えておりますので、これまでの対応等について、事務局から説明をお願いします。

<事務局> 「学校教育における新型コロナウイルス感染症の対応について」説明

<議長：室井市長> ただ今、事務局より説明がありました。

これまでの各学校においては、様々な感染予防対策に取り組んでおり、学校内の感染拡大は無かったということでした。

感染症の対応等について、ご意見ご感想などがございましたら、発言をお願いい

たします

〈松本委員〉 市内で感染症が急激に拡大した中で、各学校においても陽性者が発生してしまいましたが、最小限で踏みとどまったかなと感じております。家庭での感染が多いということで、学校での予防対策がしっかりと出来ていたということだと思います。学校では様々な感染症対策をやっているというのが分かりました。給食も黙食を行っており、いまの時期それが当たり前となっておりますが、以前は、給食中の会話の中から、児童生徒の体調やメンタル的な部分の変化を見つける場になっていたかと思っておりますので、そういった点で、子どもたちのシグナル、変化を見落とさないように注意していただきたいと思われました。

〈事務局〉 給食の時間については、本来であれば、各グループで食べているところに順番に先生が入って一緒に食べながら、子どもたちの情報を得るようにしておりましたので、コロナの状況が落ち着きましたら、これまでのように子どもたちの情報を見落とさないように取り組んでいきたいと考えております。

〈林委員〉 これまで市内の小中学校の児童生徒からも陽性者が出て、ほとんどの方は学校に復帰されたと思えますが、復帰した場合に、学校内での体制などはどうだったのか。

〈事務局〉 復帰した児童生徒が、例えば不登校に陥ったとかいじめにあったとか、そういう状況報告はいただいておりませんが、学校の養護教諭やスクールカウンセラー等も配置しておりますので、そういった対応が起きた場合につきましては、学校でしっかりと対応してまいります。

〈林委員〉 今のところは、きちんと登校していて、差別的な扱いをうけているということはないということですね。

〈議長：市長〉 いちばん気になる点でしたが、うまく行っているということで良かったです。

〈秋月委員〉 現場の先生やスクールサポートスタッフの皆さんの取り組みのおかげで、校内での感染がなかったのだと思います。日常の生活が大変な中でこれだけの対応をしながら学校生活を送らせていただいている事が、保護者としても感謝しております。陽性者が発生した場合の保護者への連絡で、緊急メールが保護者の中でも好評で、すぐに保護者に情報が届きますので有効に機能していると感じています。今後もぜひ続けていただければと思います。

現在、学校で児童生徒たちも皆さんマスクを着用していると、大勢の中で誰が発言しているか分かりにくいとかあるかと思えますが、教育現場での苦勞していることなどがあればお聞かせください。

〈事務局〉 やはりマスクをしていると声がこもってしまい聞きづらいといった事や、表情が読み取れないといった面がありますので、子どもたち同士でも苦勞しているのではないかと思います。対応については、今のところ具体的には難しい状況だと感じております。

〈秋月委員〉 以前、透明のマスクを使った事がありましたが、それはそれで曇ってしまって、使っても気持ちが悪かった事がありましたので、マスクについては新しい物が出ればいいなというものでもないと感じました。

〈議長：市長〉 マスクをしたままの生活に馴染んできている部分はある程度あるのかも

しれません。言い訳になってしまうかもしれませんが、人間の順応力はある程度高いので、目とか一部の情報で判断することも出来るようになってきているのではないかと思います。

〈一ノ瀬委員〉 質問になりますが、学校側で児童生徒の家族が濃厚接触者や接触者になっているという情報はどのように把握しているのか。また、保護者には、陽性者が発生した場合に連絡が行きますが、例えば業者の方など一般の方にはその学校で陽性者が出たという情報は無くてわからないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

〈事務局〉 以前から保護者の方へは、家庭内でPCR検査を受けるような場合には学校に連絡をいただくように周知しており、今のところは全て情報が上がってきておりまして、家庭からの連絡により把握しております。

陽性者が発生した場合の連絡についてですが、一般の市民からは、特に苦情などは今のところありませんが、保護者の一部からは陽性者が発生した学年も教えてもらいたいといった声が寄せられております。保護者の方の職種によっては、同じ学年から陽性者が発生した場合には職場への出勤をさせないところもあるようで、学年だけは教えて欲しいといったご意見がありました。

〈一ノ瀬委員〉 学校で陽性者が発生した場合に、不安だからといった理由で欠席している子どもはいるのか。

〈事務局〉 通常は欠席している児童生徒はおりませんが、陽性者が発生した情報を保護者の方へ流しますと、その翌日には心配されて学校を欠席される方もおります。

〈一ノ瀬委員〉 そこから不登校になるようなことは無いのか。

〈事務局〉今のところは、そのようなケースはありません。

〈議長：市長〉 情報開示については、難しい判断になるかと思いますがけれども、学級閉鎖などをすすると、どこの学校で陽性者が出たのかは分かってしまうことがあります。学級閉鎖等をやらざるを得ない場合は、閉鎖いたしますけれども、感染拡大の可能性が低いという場合には通常どおり学校を開けております。幸いにも現在のところ、学校内での感染拡大は無いということです。

私からもお聞きしたいのですが、市内の小中学校の修学旅行は、春には実施していたのか。全て秋に実施するようになっていたのか教えてください。

〈事務局〉 修学旅行は、秋に行っていますが、1校のみ4月に修学旅行を行っております。

〈林委員〉 市長にお伺いしたいのですが、高齢者のワクチン接種については7月に終わる予定で進めているところかと思いますが、郡山市や福島市では、教職員など学校関係者や保育所、幼稚園の関係者についても優先的にワクチン接種を実施するというのですが、本市において教職員への優先接種についてのお考えはどのような状況でしょうか。

〈議長：市長〉 現在、対応しており7月には高齢者へのワクチン接種が完了しそうな見込みで予約状況がとれております。また、ワクチンの量も増やしてもらえそうな状況で、前倒して接種ができる見込みであります。そうすると、どの週にどれだけの人が受けられるのかというのが分かってくるので、どういった方を先に接種するかという作業を行うこととなります。接種するには職場を抜けていただく必要があ

りますので、先生方が一斉に現場を離れることはできないので、教職員ならどういった手順で実施する方法がいいのか、幼稚園・保育所・認定子ども園の先生方は、どうしたらいいのかといった検討が必要です。高齢者施設の接種については、既にとりまとめを行っており手順の協議に入っているところです。発表の如何に問わず作業は進めておりますので、実施する場合の手順については、教育委員会においても考えていただいて、健康福祉部と擦り合わせをしていただいて、見通しが付いた段階で公表していきたいと考えております。

〈教育部長〉 今のところ学校内での感染は見られませんので、感染症対策が徹底されていると考えております。それよりも例えば、幼稚園や保育所など幼いお子さんなどを相手に感染症対策を徹底することが難しい部署ですとか、小中学校の先生方よりも優先して接種すべき職場があるのかと思いますので、健康福祉部とも協議しながら検討させていただきたいと思っております。

〈議長：市長〉 具体的に接種できる状況になりつつあるので、早急に検討していただければと思います。今のところワクチン接種は、1週間で4千人ぐらいは接種できる状況ですので、教職員が約600人程度であれば1週間あれば実施可能かと思っております。ただ実施方法については、現場を回って接種するのか土日に実施するのかなどいろいろな方法があるかと思っておりますので、現場でこういった方法が望ましいというのを検討していただきたい。

〈教育長〉 部長からあったとおり、教育委員会や小中学校での感染症対策や感染予防の認識は高いと感じています。一方でマスクをはずして遊ばなければならない幼児とか、幼稚園や保育所の先生などが優先すべきと考えております。国で順番を決めている基礎疾患がある方などの順番もありますので、小中学校の中では直接身体接触はしないよに十分指導しておりますので、幼稚園等の接種が終わるような段階で順番を決めていただければと思います。ワクチン接種は授業に影響のない日に実施する必要がありますので、実施するのであれば夏休み期間中に実施するのがスムーズかと思っております。小さなお子さんたちとの関わりがある幼稚園教諭や保育士などが一番優先されるべきかなと思います。その後で小中学校の教員の順番となれば、その準備をしておかなければならないと思っております。

〈議長：市長〉 貴重なご意見、ありがとうございます。小中学校の教職員へのワクチン接種についても夏休みであれば一斉に接種はできるのかなと感じました。何かございましたら最後にまとめてご発言をいただければと思います。一旦、感染症の対応については終わらせていただきたいと思っております。

〈議長：市長〉 それでは二つ目の協議題といたしまして、「学力向上対策について」を協議してまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校においては、令和2年3月から5月下旬頃まで臨時休業を余儀なくされ、また、全国学力学習調査についても、令和2年度においては、実施することができませんでした。そのような中でも学校における新しい生活様式に基づき、授業や部活動、各種行事等において工夫をしながら可能な限り教育活動を継続し、子どもの健やかな学びを継続してきたところでございます。コロナ禍において、学力にどのような影響が出てくるのか心配される状況ではございますが、本市といたしましては、あいづっこ学力向上推進事業における様々な施策に取り組んでおりますので、これまでの取り組みについて事務局から説明をお願いいたします。

〈事務局〉 「令和3年度あいづっこ学力向上推進事業の進捗状況」説明

〈議長：室井市長〉 ただ今、事務局より説明がありました。
ご意見ご感想があればご発言をお願いいたします。

〈林委員〉 教育ICTの推進としてタブレットを活用した授業というのか大きく占めてくるのかと思います。個人でタブレット等の端末を持っている人はアカウントなどを調べて家からのアクセスが可能なのかということと、家庭でオンライン学習を受けられる環境の子どもと、端末を持たず、家でオンラインでの家庭学習が出来ないとなると、学習において差が出てきてしまうかと思われるがどうなのか。

〈事務局〉 家庭からのアクセスは可能ということで確認しております。タブレットを使わない場合につきましても、教科書などで予習する子どもたちとそうでない子どもたちとは差がつくものだと思いますので、タブレットの所有の有無によっても、授業になんらかの影響は出てくるのかと思います。

〈議長：市長〉 タブレットでなくても、スマホやパソコンなどでインターネットに接続できればアクセスできるのか。

〈事務局〉 パソコンなどからも接続は可能です。

〈林委員〉 ネット環境が整っていても予習をする子はするし、予習しない子はしないので、これまでの影響とあまり差はないのではないかと思います。

〈秋月委員〉 本日、市内の小中学校前項にタブレット端末の配備が完了したということですが、先行してタブレットを導入した学校において、授業もしくは研修といった中で学んでみての成果まではいかないかと思いますが、子どもたちの反応としてはどうだったのか。

〈事務局〉 子どもたちも自分で調べたことをまとめて発表する時にタブレットを活用してことを行ったりすることで、学習意欲、それから定着にも繋がっていると話を聞いております。それから、先生方の研修につきましても、教育ICTの推進リーダーを各学校におりますので、推進リーダーを中心に進めております。

〈議長：市長〉 一部の学年には先行して配布しておりましたが、配布の順番というのはどのようになっておりましたか。

〈事務局〉 まず中学校1年生と小学校5・6年生に配布し、その後で小学校1年から4年生と中学校2・3年生に配布しております。

〈教育長〉 タブレット端末が入った所から、どんどん使っておりますので、校内での研修についても進んでおりおります。それから、昨年の段階で学校に配当したタブレットを不登校の児童生徒に貸し出して家で学習に使ってみたりといった事も報告を受けております。不登校の児童生徒全員に一律に貸し出すのではなく、家で使ってみて勉強したいといった希望者をピックアップして貸し出しを行ったものです。タブレットが入ったら使い始める方針でおりましたので使う準備はできていると思います。

〈議長：市長〉 オンライン学習については、どういった方法で実施するものなのでしょう。例えばZOOMを使って実施するのかとか、どうやって家庭にいてオンライン学習を利用できるのかなど、教育委員会での現段階での考えは。

〈教育長〉 実際にタブレットの使用や学習利用については、まだ、すごく役に立ったと

か報告を受けていないので、まずは、フルに活かすということに焦点を置いて取り組んでいきたいと考えております。オンラインで家庭学習を行うと凄く学力が付くようなイメージがありますが、学校を休業にした場合などは、オンライン学習というのは役に立つと思いますが、今の段階においては、例えば家庭学習のためにタブレットを持ち帰らせて、オンライン授業のために教員が普通の授業以外に夜残ってオンライン授業を実施するというのは無理なので、オンライン学習を実施するならば、例えば土日などに特別学習会を実施して土日に受けたい子に向けて授業を行うといった方法は考えられます。また、学校を普通にやっている状況でオンライン学習を行う場合には、オンラインの学習教材で良いものを集積したり、オンライン学習の教材を紹介することなら出来るかと思いますが、学校教育の中で家庭にタブレットを持ち帰らせて教員がオンライン学習を行うことは、一斉休校などになった場合は別ですが、今の段階では考えておりません。

<議長：市長> オンライン学習については、学ぶ道具として活用して、同じ時間に実施するののかということもありますね。私もZOOMなどで会議を行う場合がありますが、途中で回線が落ちてしまったり、固まってしまうとトラブルが発生したりしますので、一斉にオンライン授業を実施するというのは課題もあるかと思います。

<松本委員> タブレット端末の活用が本格的にはじまる中で、例えば会津大学の生徒などをうまく活用できないものかと思います。一緒に先生たちのサポートになってくれば、お互いにいいのかと思いますがどうでしょうか。

<事務局> これまでも会津大学の生徒さんたちには、ボランティアとして協力をいただいております、会津大学と連携した英語の教育活動なども実施しておりますので、引き続き連携をしながら続けてまいりたいと考えております。

<松本委員> 今回のコロナの影響などで、国からの雇用調整交付金のようなものを活用して今だから実施できる事業といったものはないのか。

<議長：市長> 大学生に何を求めるのかといったことがあるのかと思います。タブレットの操作方法などであれば会津大学の生徒のサポートでも十分可能だと思いますが、教育課程の中で何かを教えるということになると難しいのかと思います。端末の操作など技術的な面でのサポートならできるかと思いますが分けて考えなければいけないのかなと感じます。

<一ノ瀬委員> 全国学力学習調査がオンラインで実施するようになるのは、いつ頃からオンラインになるのかなど具体的なスケジュールは決まっているのか。

<事務局> 現在、国でワーキンググループを立ち上げまして、時期等も含めて検討している段階であります。

<教育長> 今年の会議での話では、3年から4年後には実施を目指したいといった話は出ておりました。国際的な試験が全てオンライン化されているので、日本も慌て準備をしているようですが、そのようなスケジュールでワーキンググループでも準備を進めているのかと思います。

<一ノ瀬委員> テストの方式がどうなるのかという事もワーキンググループで検討している状況ですが、いかなる方式になったとしても対応していかなければならないということですね。

<教育長> 国が急いで準備しているので、それに遅れないように市の単独テストでは、

少しずつ実施していかなければならないと思っておりますが、オンライン化に向けた予算も必要になってくるかと思えます。

〈一ノ瀬委員〉 チャレンジテストなどをうまくオンライン化して使えないかなと思いました。活用力育成シートなどについても、各学校での裁量で実施するかを決めているところがあるので、実施しないと判断した学校では使えなくなってしまう。オンラインなどで自由に使えるようにしておけば、活用しやすいのかなと感じました。さすがに中間テストや期末テストなどをオンラインとか、タブレットで実施するとなると、まだハードルが高いのかなとは思いますが、うまく実践で使えるようなところで活用していったらいいのかなと思いました。タブレットの使用の範囲とかについては、各学校での裁量で決めているのかというところをお聞きしたい。一般に公開されているオンライン学習などを、学校からサイトの利用を制限したりすることがあるのか。

〈事務局〉 現在、教育推進プランの作成をしている段階であり、1学期中には各学校でタブレットの実践が始まるので、その中で出てきた課題等をプランの中に盛り込んでいき、それを基に各学校で推進していただければと考えております。

〈一ノ瀬委員〉 コロナの影響で、外部講師を招いての学習などが難しくなっているので、ツールとして使っていただければいいのかなと思えますので、学校では安全な範囲でどんどん使っていったら欲しいと思えます。先ほど、松本委員から会津大学との連携といった話がありましたが、アプリを作ってもらおうといった連携方法もあるのかと感じました。会津大学の授業と連携して子どもたちにも何か伝わるような連携の方法なども考えられるのかなと思えました。

〈事務局〉 英語の学習だけではなく、いろいろな部分で会津大学と連携して進めてまいりたいと思えます。

〈議長：市長〉 全国学力学習調査は、市全体で何人ぐらい受けるのか。太い回線が必要になるのではないかなと思うがどうなのか。

〈教育長〉 対象が小学校6年生と中学校3年生で、市内だと合わせて2千人未満なので、市では大丈夫だと思います。

〈議長：市長〉 大人数が同時に一斉に繋ぐとサーバーが落ちる可能性があるので心配しました。例えば電子投票などは一斉には行わないので問題は無いが、過去に英語のヒアリングの試験でテープが回らないなどのトラブルがあったように、何かしらトラブルが生じる事がこれまでもあった。新しい取り組みを実践する場合には予期せぬトラブルが起きることも想定して準備していただく必要がある。

〈議長：市長〉 これまでいろいろとご意見を伺いましたが、改めて何かございましたらお願いしたいと思います。

私からの要望は、是非、頑張れる児童生徒には頑張れるように、いい土俵を作ってあげて、学力で結果や成果が出ているということは、必ず本人の自信になりますから、どのスタートラインからでもいいので、実感として結果や成果が出ているということを感じさせてあげて欲しいと思えます。

子どもたちにも色々な方向性があるので、コンピューターを使わせたら出来るのか、パソコンは出来ないが十分に勉強ができるのか、それぞれステージがあつていいと思うので、多様な人が育つということがいいのかなと思えます。機械には使われるものではないと気付く子どもたちが出てくることも大事だと思います。システ

ムそのもの間違いに気づいたり、仕組みをつくるような人になって欲しいと思います。

〈議長：市長〉 コロナの話に戻りますが、新規陽性者の数は減っては来ておりますが下げ止まりの状況です。市長としては、ワクチンを早く接種して地域全体が感染しにくくすることが大切だと考えております。観光客の方を自信をもってお迎えできるように、飲食店の方もうちの店は安心です。対策をきちんとやっていると自信をもって言えるようになってこそ「新しい生活様式」になってくるのかと、それぞれが頑張っていたくしかないのかと思います。改めて学校現場では、今までしっかりと対策をしていただいたおかげで、学校内での感染はありませんでしたが、学校関係者においても、できるだけ早くワクチン接種を受けていただけるようにしたいと思っております。

〈林委員〉 高校の役員の方から聞かれる事があるのですが、住所を市内に置いたまま進学等で他県に行っている大学生などはワクチン接種を受けるには、やはり市内でなければ受けられないのかどうか分かれば教えてください。

〈議長：市長〉 住所地外接種券というものをスマホで取ることができるようになっております。住所地以外の地域で受けることは可能です。住所地外接種券のスマホ画面をスクリーンショットで撮って、接種する際にそれを見せて受けることもできますし、住所地でその住所地外接種券を発行することもできます。数は少ないのですが、市民の方でもかかりつけ医が市外の病院だったりする方もおりますので用意しております。ただし、接種をうける自治体のワクチンの量にもよりますが住所地以外での接種も可能です。

〈教育長〉 タブレットの使い方についてご質問もあったので私からお答えしたいと思えます。タブレットの使用法としては、授業の中に他県の児童生徒や講師の方などいろいろな方と繋いで授業ができるようになりますし、また、学習が進んでいる児童生徒はどんどん先の学習サイトを見ながら勉強することができます。いろいろな使い方ですべてひとりが自分のレベルにあった学習ができるようになるものと考えております。

チャレンジテストについても、現在市内だけでなく、周辺市町村でも本市で作ったチャレンジテストを使用してテストを実施しているところもあるので、使用する周辺市町村が増えれば、データの数も増えていきますので、陥没点の洗い出しとか新しい授業づくりに役に立つと思っております。

それから、コロナの陽性者の情報の開示についての要望については、もっと細かい情報を教えてもらいたいといった声もあります。細かい情報まで出して安心したいという気持ちは分かるが、学校は特定の人しか出入りしていないため、外部の人が学校に来て感染することは無いことや、例えば学校名や学年を開示した場合、必ずネットやSNSなどを通じて感染者の特定が始まってしまいます。そのことによって特定された児童生徒の傷のほうは、市民の方が身近な学校から陽性者が出なくて安心したいと思う気持ちとを、秤にかけたら子どもたちを誹謗中傷などから守ってあげる方が大事だと思っております。これまでも児童生徒から陽性者が出た中でも、学校によっては陽性者を特定する動きが出て、非常に危険だったケースもありましたので、情報の公開については、子どもを傷つけないように、校内でクラスターが発生した場合などは別ですが、開示については、気を付けて行わないと子どもたちの将来をつぶしてしまうことに繋がってしまうので、冷静な判断をしていかなければならないと思えます。

ワクチン接種については、今後の感染予防で気を付けていかなければならないのは、小中学校教員のワクチン接種を先に実施していただければ保護者の方も安心してくれると思えますが、教員の気持ちの引き締めをしていかなければならない。教

員は接種済みで発症を抑えられますが、児童生徒は接種していない状態なので、そこに大きな差がある。教員の気持ちに緩みが出てしまえば、今、実施している感染予防対策が、緩んでしまうことになるので、その指導は教育委員会として綿密にきっちりやっつけていかなければならない。子どもたちが頑張って感染しないように予防に取り組んでいることは凄い事だと思います。子どもたちも学校に来て皆と一緒に勉強したいという気持ちがあって努力しているものだと思いますので、子どもたちの学びや活動を止めないように頑張っていきたいと思います。

〈議長：市長〉 大事なポイントをしっかりとお伝えいただきありがとうございました。今回、会津若松市で急激に感染者が発生いたしました。実は、4月の中旬頃までは、他の自治体の方などからも会津若松からの感染者数は少ないなどと話していた矢先での感染拡大でした。会津は大丈夫だといった気の緩みがあったのだと感じており市長としても反省している。そういった気持ちと変異株により感染力が強くなったこと、連休も重なったということで、職場内では広がらず家庭内での感染が一気に拡大してしまい、現在まで引きずっているといった状況かと思えます。ワクチン接種をしたら感染しないという訳ではありませんが、感染拡大防止に繋がりますので早く接種できる環境を作ってまいりたいと思っております。

それでは、そろそろ時間のございますので最後に何かご意見等ありませんか。

(特になし)

〈議長：市長〉 本日は、学校における新型コロナウイルス感染症の対応と学力向上といった議題で進めさせていただきました。是非、皆さんのほうからのご意見を伺いながら学びの環境をつくっていききたいと思えます。本日はありがとうございました。

○閉 会